

2026年3月期 決算説明資料

(2025年4月1日～2026年3月31日)

2026年5月13日
ジーエルテクノホールディングス株式会社

東証STD 255A

| | | |
|------------|--|---------|
| 01. | エグゼクティブサマリー | … P. 3 |
| 02. | 事業概要 | … P. 6 |
| 03. | 決算概要（2026年3月期） | |
| | 連結 | … P. 12 |
| | セグメント別 | … P. 16 |
| 04. | 中期経営計画の進捗状況 （2025年3月期－2027年3月期） | … P. 33 |
| 05. | 業績・配当予想（2027年3月期） | … P. 42 |
| 06. | APPENDIX | … P. 51 |

01. エグゼクティブサマリー

2026年3月期

増収・増益

売上高

47,189 百万円

〔 前期比 +9.1% 業績予想比 +5.6% 〕

分析機器事業および半導体事業が売上を牽引し、
前期実績を9.1%、業績予想を5.6%上回った

営業利益

7,111 百万円

〔 前期比 +12.1% 業績予想比 +6.5% 〕

分析機器事業および半導体事業による増収効果が寄与し、
前期実績を12.1%、業績予想を6.5%上回った

2027年3月期 業績予想及び配当予想

通期業績・配当予想は
前期比増収・増益・増配の見込み

売上高

50,000 百万円

〔 前期比 +6.0% 〕

営業利益

7,740 百万円

〔 前期比 +8.8% 〕

配当予想

126 円

〔 前期比 +3円 〕

TOPICS

政策保有株式減縮に向けた株式売出しと 自己株式取得を実施

- ✓ 当社株式の市場流動性向上、幅広い投資家層における当社の認知度の向上を目指し、当社株式に係る**政策保有株式の縮減**を能動的に推進
- ✓ 株式売出しによる需給への影響を緩和すべく、**自己株式取得**も実施

分析機器事業

増収・増益

- ✓ PFAS分析需要の拡大や中東情勢悪化懸念を背景とした先行発注も寄与し、増収
- ✓ 下半期を中心に新製品のカラムを含む自社消耗品の販売が好調に推移したことが寄与し、増益

売上高

21,549 百万円
〔 前期比 +7.9% 〕

営業利益

2,345 百万円
〔 前期比 +14.6% 〕

半導体事業

増収・増益

- ✓ 期初時点の豊富な受注残高に加え、下半期における急激な受注環境の回復の影響もあり、増収
- ✓ 増収効果に加え、4Qにおける高利益率案件の増加により営業利益率が改善、増益

売上高

23,659 百万円
〔 前期比 +11.0% 〕

営業利益

4,686 百万円
〔 前期比 +12.5% 〕

自動認識事業

減収・減益

- ✓ 分析機器事業との協働による販売は拡大したものの、開示数値としている外部顧客への売上高は、前期比減
- ✓ 主に低利益率案件が増加した影響を受け、減益

売上高

1,980 百万円
〔 前期比 ▲0.1% 〕

営業利益

50 百万円
〔 前期比 ▲56.1% 〕

02. 事業概要

経営統合により、グループ内の経営資源をより戦略的に活用可能に
2024年10月より「ジーエルテクノホールディングス」としてさらなる成長と企業価値向上を推進



経営効率の向上

最適な経営資源配分

意思決定の迅速化

ジーエルサイエンス株式会社

(1968年設立)

分析機器事業

クロマトグラフィーの技術であらゆる分析を支える

分析装置とカラムなど消耗品の企画・開発から販売・サポートまで一貫対応し、多様な産業の成分分析を幅広く支えています。



クロマトグラフィー関連消耗品



ガスクロマトグラフ 試料前処理装置



テクノクオーツ株式会社

(1976年設立)

半導体事業

最先端の加工技術で世界の半導体製造を支える

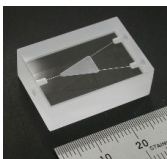
半導体製造装置向け高純度石英ガラスと結晶シリコンパーツの製造販売を主力に、高品質なモノづくりに取り組んでいます。



機械加工



火炎加工



拡散接合



シリコン加工

ジーエルソリューションズ株式会社

(2013年設立)

自動認識事業

非接触ICカード技術でより快適な社会を実現する

非接触でICタグを読み書きする自動認識技術（RFID）のパイオニアとして、先端技術を駆使し情報化社会の進化に貢献しています。



機器組込型リーダライタ



壁付型リーダライタ



鍵管理ボックス

既存の枠にとらわれない価値創造に挑戦し、“社会に不可欠な技術と価値”を生み出し続ける

[ミッション]

存在意義

人と社会の可能性を触発する

ジーエルテクノグループは、創業当初より「信頼し合える仲間が集まり、人がこの世に生まれた意義を追求すること」を根本精神としており、組織の成り立ち自体が、人がもつ可能性を触発する挑戦でもあったといえます。自らの成長のみならず、産業や社会の発展の可能性をも触発する存在でありたい。その思いは今も変わることはありません。私たちは創業の理念を受け継ぎ、その使命に向かって挑戦し続けます。

[ビジョン]

将来目指す理想の姿

枠にとらわれない自由な価値創造に挑戦する

ジーエルテクノグループは、創業より半世紀を超える歩みを重ねてきましたが、前例や既成の事業領域に縛られることなく、グループを構成する一人ひとりが自身で思考しながら、新しい価値創造に取り組んでいます。

[コーポレートメッセージ]

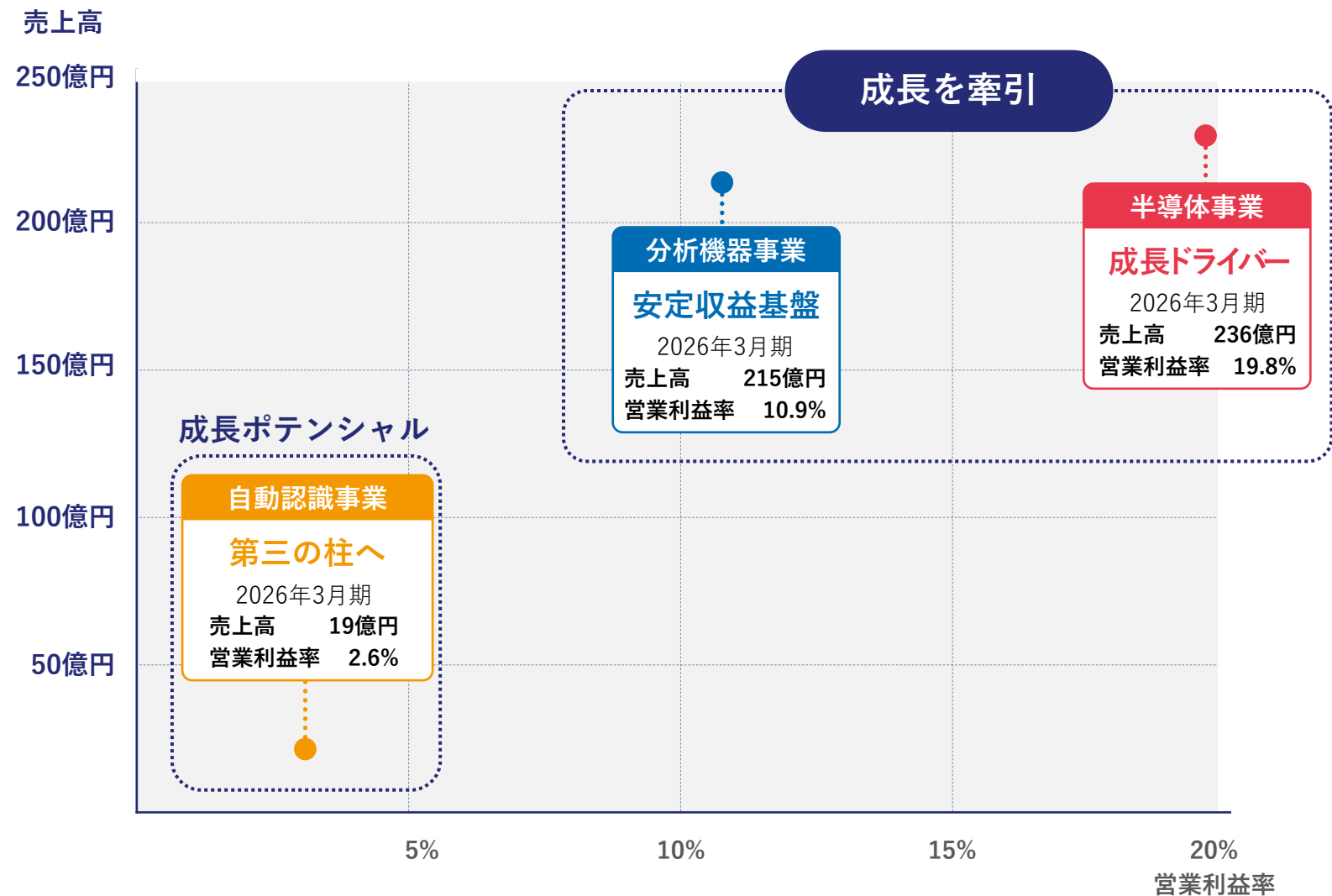
企業メッセージ

Search for a Way

次のイノベーションのそばに。

お客様のために、社会のために。そして自分たちの成長に向けて、常によりよい手段・手法を探し続けていきます。いつの時代も科学の発展と人々の暮らしを支え、社会に貢献していきます。

“安定の分析機器事業”と“成長の半導体事業”のダブルエンジンで着実な収益拡大を目指す



分析機器事業

ジーエルサイエンス株式会社

分析装置や、その装置に欠かせないカラムなど各種消耗品の企画、開発、生産、販売、サポートまでを一貫対応

Point 景気の波に左右されにくく堅実に成長

半導体事業

テクノクォーツ株式会社

半導体製造装置用の高純度石英ガラスと結晶シリコンパーツを主力とした半導体関連製品の製造・販売

Point 半導体製造装置の稼働量と急伸を背景に大きく成長

自動認識事業

ジーエルソリューションズ株式会社

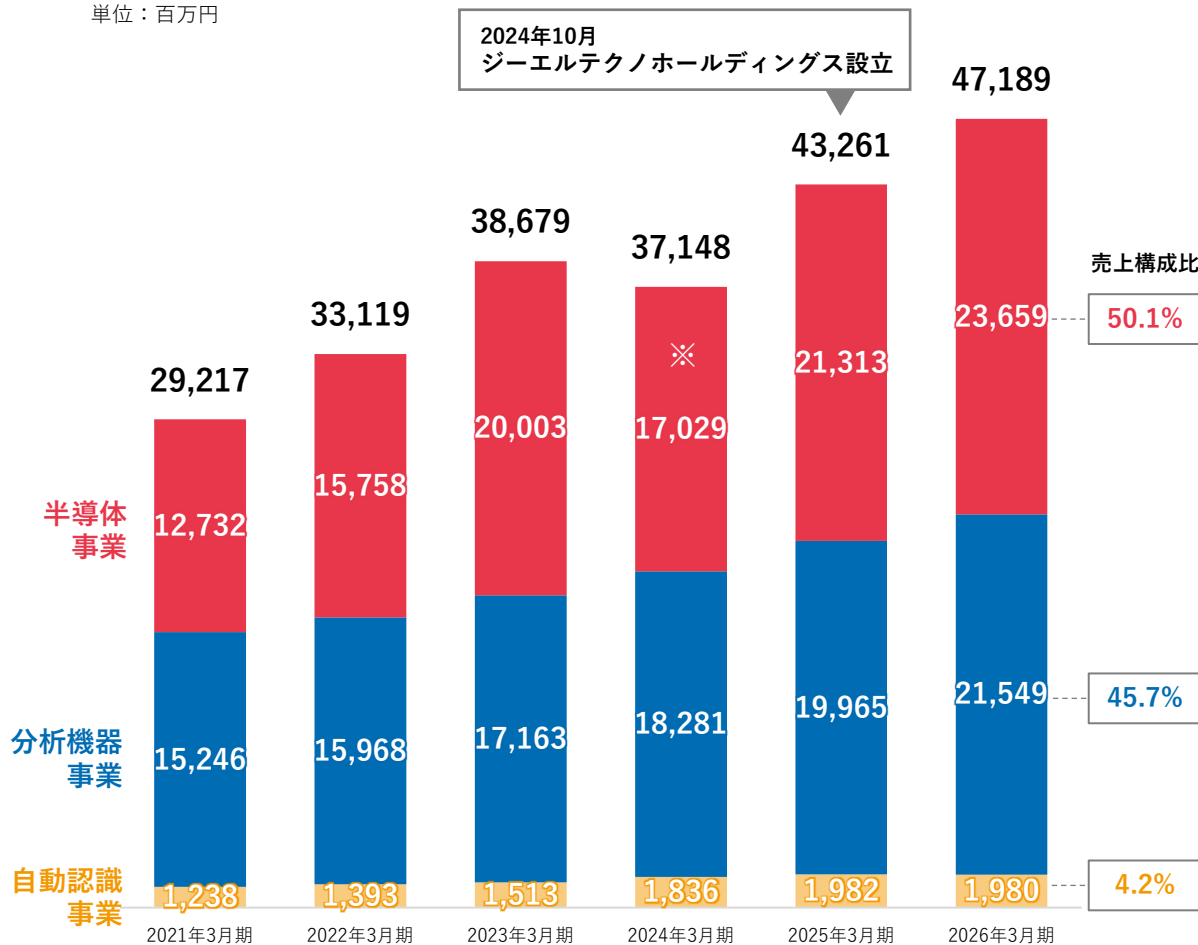
ICタグの情報を非接触で読み書きする「自動認識技術(RFID)」のパイオニア企業として、関連製品を製造・販売

Point IoTが各分野に浸透していく中でニーズが拡大

社会を支える3つの事業で実現している堅実な経営基盤と収益性の成長性

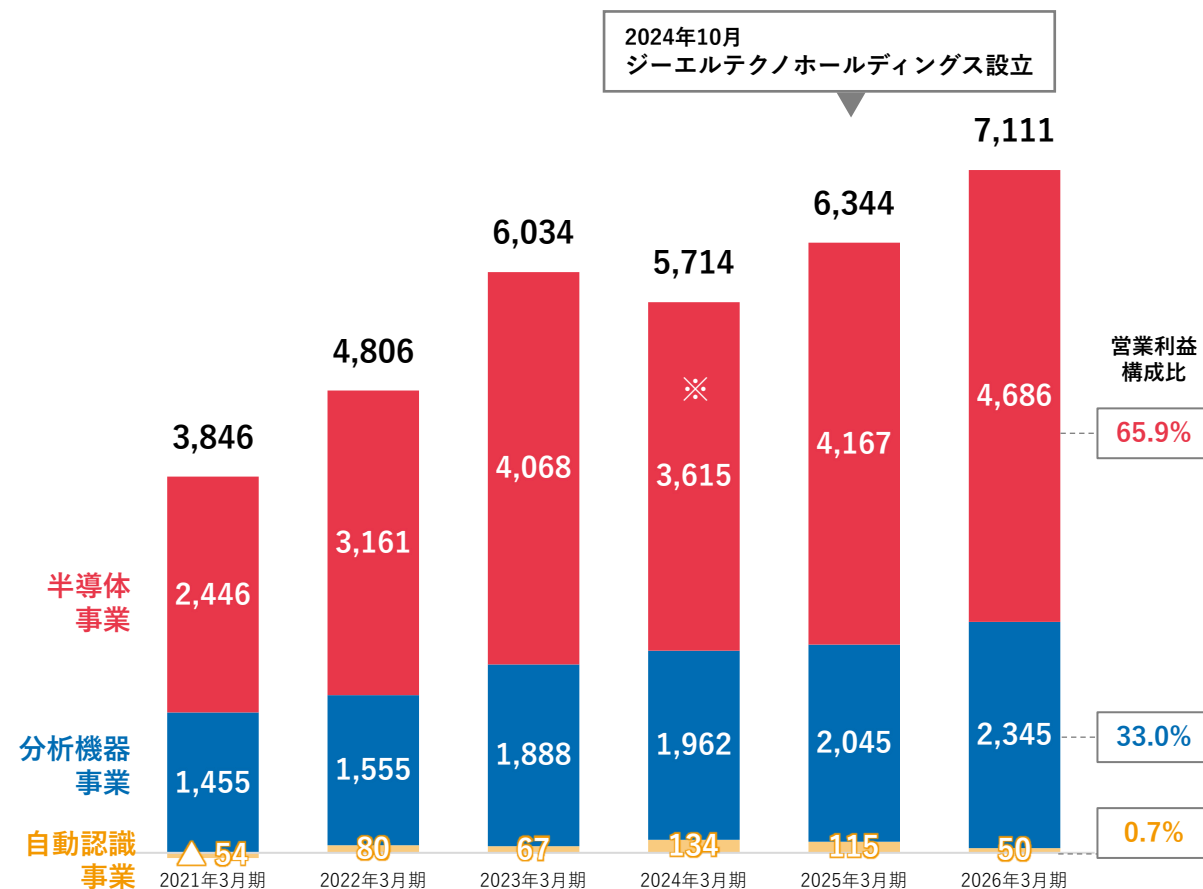
セグメント別【売上高】推移

単位：百万円



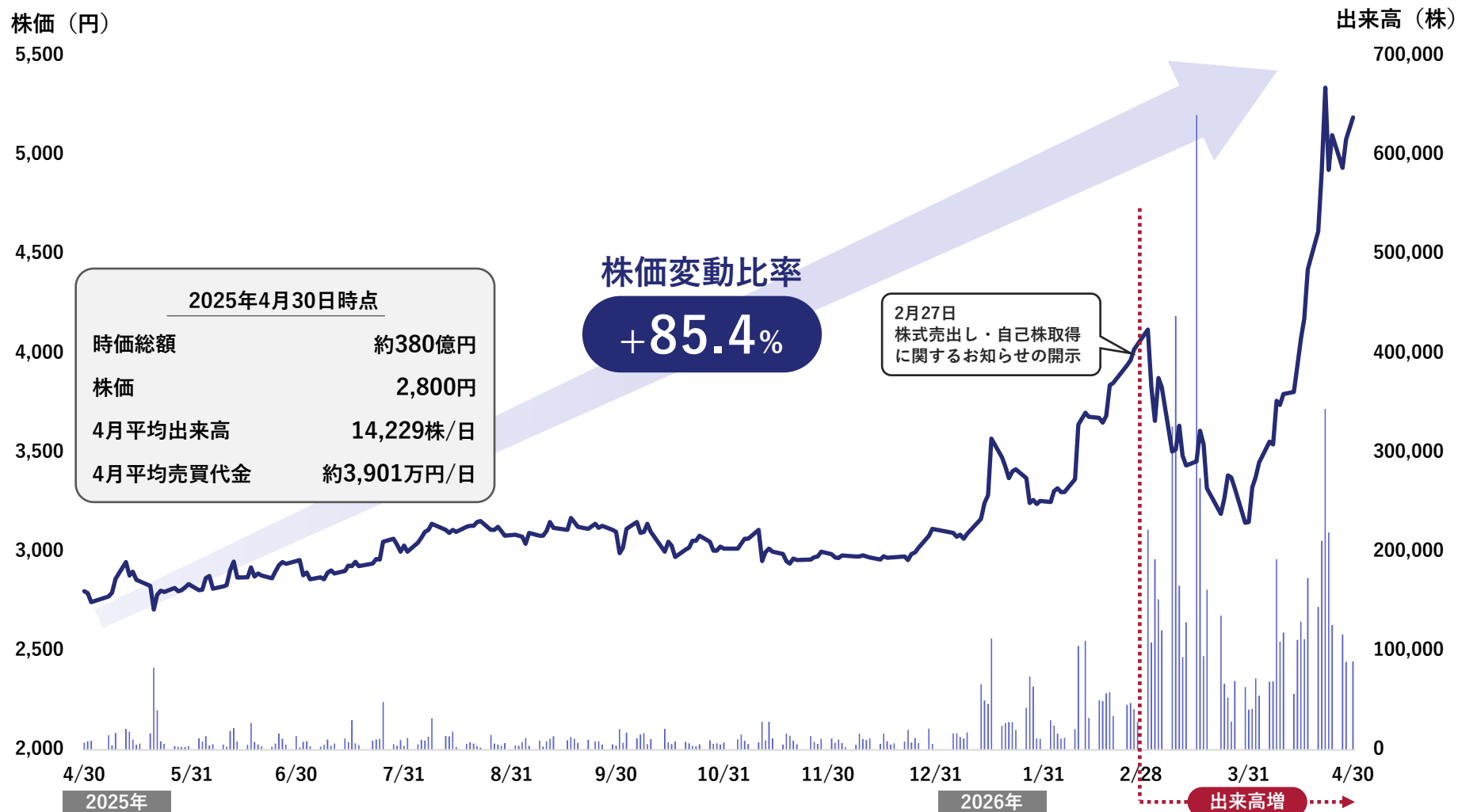
セグメント別【営業利益】推移

単位：百万円



※ 2024年3月期 半導体事業売上高は、パソコンやスマートフォン向け需要の減退に伴うメモリ在庫の停滞の影響で減収減益

株価・時価総額は4月末比で前年比約2倍に上昇、出来高・売買代金も大きく増加



Point

- ✓ 政策保有株式の縮減を推進
- ✓ 自己株式取得を実施

03. 決算概要（連結）

2026年3月期

増収・増益

- 売上高は、半導体事業の豊富な受注残高に基づく工場の高稼働や下半期における急激な受注環境の回復の影響に加え、分析機器事業の堅調な推移が寄与し、前期比9.1%の増収
- 営業利益は、主力2事業の増収効果に加え、分析機器事業にて自社消耗品の販売が好調であったことや、半導体事業にて高収益案件の構成比が高まったことから、前期比12.1%の増益
- 当期純利益は、経営統合に伴い非支配株主に帰属していた当期純利益が発生しなくなったことも寄与し、前期比31.8%の大幅増益

| 単位：百万円 | 2025年3月期 | | 2026年3月期 | | 前年同期比 | |
|---------------------|---------------------|-------|----------|-------|---------|---------|
| | 実績 | 売上比率 | 実績 | 売上比率 | 増減率 | 増減額 |
| 売上高 | 43,261 | - | 47,189 | - | + 9.1% | + 3,928 |
| 売上原価 | 28,130 | 65.0% | 30,929 | 65.5% | + 10.0% | + 2,799 |
| 売上総利益 | 15,130 | 35.0% | 16,259 | 34.5% | + 7.5% | + 1,128 |
| 販管費 | 8,786 | 20.3% | 9,148 | 19.4% | + 4.1% | + 362 |
| 営業利益 | 6,344 | 14.7% | 7,111 | 15.1% | + 12.1% | + 766 |
| 経常利益 | 6,626 | 15.3% | 7,721 | 16.4% | + 16.5% | + 1,094 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 4,064 ^{※1} | 9.4% | 5,358 | 11.4% | + 31.8% | + 1,293 |

※ 経営統合前の上期は一部が非支配株主に帰属

- ・ 営業CF：税金等調整前当期純利益は増加したものの、売上債権及び棚卸資産の増加により、営業CFは前期実績を下回る
- ・ 投資CF：将来を見据えた設備投資を進めた為、2026年3月期も有形固定資産の取得による支出が前期比で増加
- ・ 財務CF：前期は借入金の返済による支出として1,574百万円を計上した一方、2026年3月期は設備投資に伴い借入を増加させたことから、財務CFは増加

| 単位：百万円 | 2025年3月期 | 2026年3月期 | 増減額 |
|---------------------|----------|----------|---------|
| 営業活動による キャッシュフロー | 6,438 | 4,148 | ▲2,290 |
| 投資活動による キャッシュフロー | ▲3,312 | ▲4,114 | ▲802 |
| 財務活動による キャッシュフロー | ▲2,548 | 608 | + 3,156 |
| 現金及び現金同等物の 増減額 | 524 | 853 | + 329 |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | 6,866 | 7,391 | + 524 |
| 現金及び現金同等物の 期末残高 | 7,391 | 8,244 | + 853 |

- ・ 資産の部：事業拡大に伴い売上債権及び棚卸資産が増加したほか、設備投資の進展により有形固定資産も増加
- ・ 負債の部：短期及び長期の借入金の他、買掛金が増えた関係で負債が増加。純資産は、利益剰余金の増加分が加算

| 単位：百万円 | 2025年3月期 | 2026年3月期 | 増減額 |
|---------|----------|----------|---------|
| 流動資産合計 | 34,341 | 37,848 | + 3,506 |
| 有形固定資産 | 18,667 | 21,044 | +2,376 |
| 無形固定資産 | 636 | 976 | +339 |
| 投資その他資産 | 4,729 | 5,806 | +1,077 |
| 固定資産合計 | 24,033 | 27,827 | + 3,793 |
| 資産合計 | 58,375 | 65,675 | + 7,300 |

| 単位：百万円 | 2025年3月期 | 2026年3月期 | 増減額 |
|-------------------|----------|----------|---------|
| 流動負債合計 | 9,890 | 10,635 | +745 |
| 固定負債合計 | 4,078 | 5,523 | +1,445 |
| 負債合計 | 13,968 | 16,159 | +2,191 |
| 株主資本合計 | 41,818 | 45,716 | +3,898 |
| その他の包括利益 累計額合計 | 2,588 | 3,799 | + 1,210 |
| 純資産合計 | 44,406 | 49,515 | +5,108 |
| 負債純資産合計 | 58,375 | 65,675 | + 7,300 |

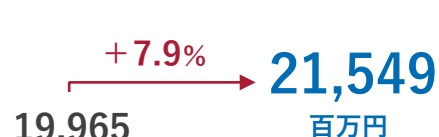
03. 決算概要（セグメント別）

2026年3月期

増収・増益

- 売上高は、PFAS分析需要の拡大や中東情勢悪化懸念を背景とした先行発注も寄与し、前期比7.9%の増収
- 営業利益においては、新製品カラムを含む自社消耗品が好調に推移し、前期比14.6%の増益

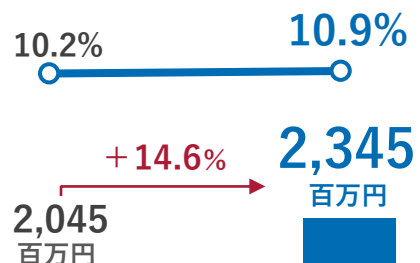
売上高



2025年3月期

2026年3月期

営業利益 (率)



2025年3月期

2026年3月期

要因・その他

国内 売上高比率 **78.1%**

装置類：PFAS分析需要の拡大による**質量分析計や固相抽出装置の販売が好調**。従来の環境・食品分野に加え、**半導体・化学工業分野も需要拡大**。

消耗品：液体クロマトグラフ用カラムに加え、固相抽出カートリッジや試料調製容器など**幅広い製品群の販売が好調**。

海外 売上高比率 **21.9%**

- 新製品Inertsil Hybrid-C18**を中心とした液体クロマトグラフ用カラムやガスクロマトグラフ関連の周辺装置、固相抽出カートリッジが好調。**中東情勢の不安に伴う一部地域での先行発注も寄与**。

売上高の伸長に加え、下半期を中心とした新製品カラムを含む自社消耗品の販売が好調に推移した結果、前期比14.6%の大幅な増益

| | 2025年3月期 | | 2026年3月期 | | 前期比 | |
|---------|----------|--------|----------|--------|---------|---------|
| | 実績 | 売上比率※1 | 実績 | 売上比率※1 | 増減率 | 増減額 |
| 単位：百万円 | | | | | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部売上高※2 | 19,965 | - | 21,549 | - | + 7.9% | + 1,584 |
| 内部売上高※3 | - | - | - | - | - | - |
| 計 | 19,965 | - | 21,549 | - | + 7.9% | + 1,584 |
| 売上原価 | 12,016 | 60.2% | 12,992 | 60.3% | + 8.1% | + 976 |
| 売上総利益 | 7,949 | 39.8% | 8,557 | 39.7% | + 7.6% | + 607 |
| 販管費 | 5,903 | 29.6% | 6,212 | 28.8% | + 5.2% | + 308 |
| 営業利益 | 2,045 | 10.2% | 2,345 | 10.9% | + 14.6% | + 299 |

※1 合計の売上高に対する比率

※2 外部顧客への売上高

※3 セグメント間の内部取引高又は振替高

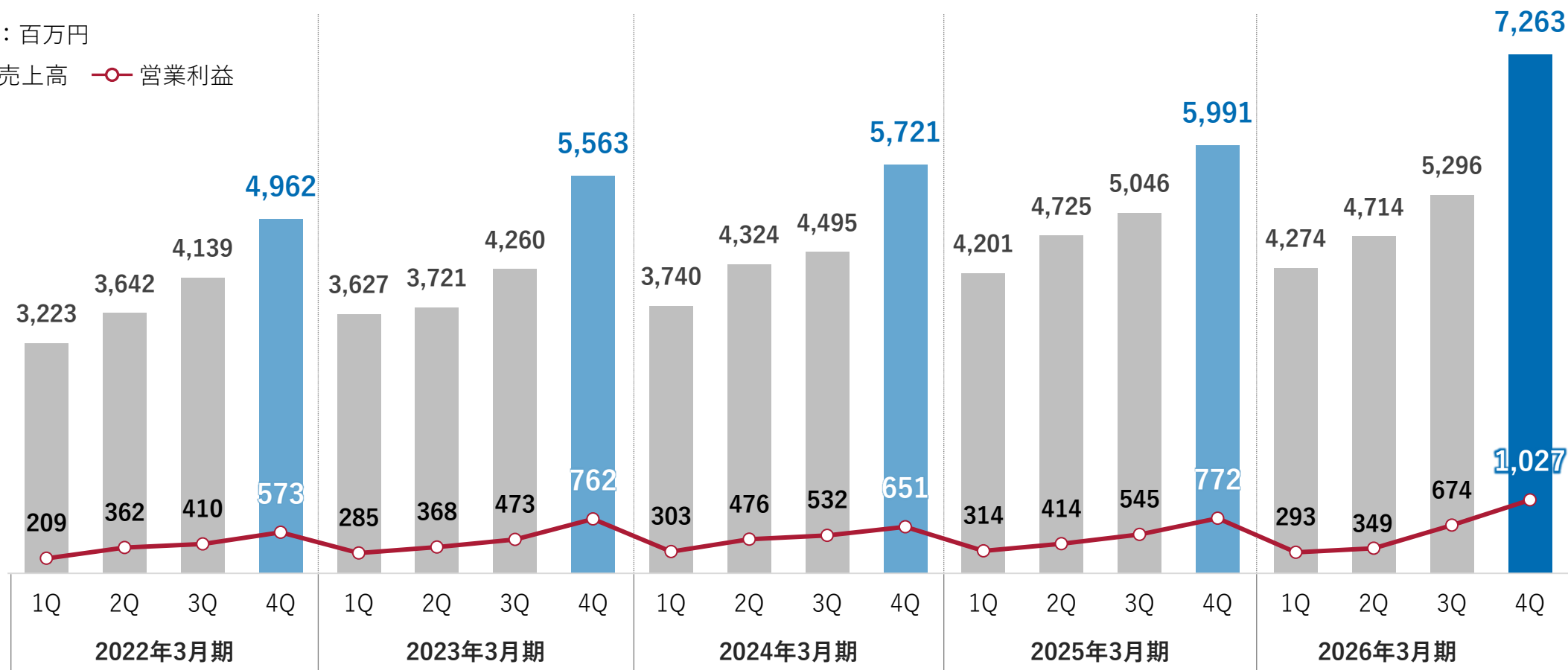
前期の特需の反動が影響した北米が低調に推移するも、販売体制の拡充や、新製品の上市、中東情勢に伴う海外需要の前倒しが起因し、国内・海外ともに増収

| 単位：百万円 | 2025年3月期 | 2026年3月期 | 前期比 | | 2026年3月期 構成比 |
|-----------|----------|----------|--------|--------|-----------------|
| | | | 増減率 | 増減額 | |
| 国内 | 15,586 | 16,835 | +8.0% | +1,248 | 78.1% |
| 海外 | 4,378 | 4,714 | +7.7% | +335 | 21.9% |
| 北米 | 573 | 528 | ▲7.9% | ▲45 | 2.5% |
| アジア | 2,703 | 2,871 | +6.2% | +167 | 13.3% |
| その他 | 1,101 | 1,315 | +19.4% | +213 | 6.1% |
| 合計（国内+海外） | 19,965 | 21,549 | +7.9% | +1,584 | 100.0% |

国内販売の売上計上タイミングにおける季節性という要因に加え、中東情勢に伴う海外需要の前倒しの影響もあり、売上高は大きく伸長。営業利益においても、3Qに続いて自社消耗品の売上高が堅調に推移したことで、4Qは分析機器事業として過去最高益を記録

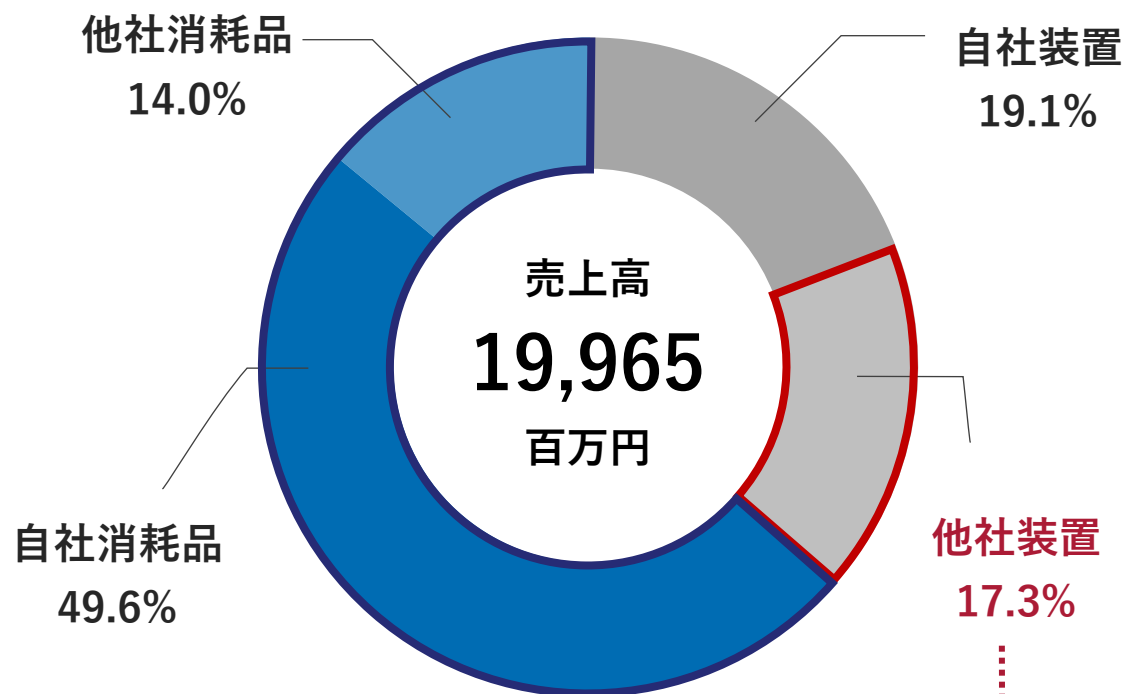
単位：百万円

■ 売上高 ● 営業利益

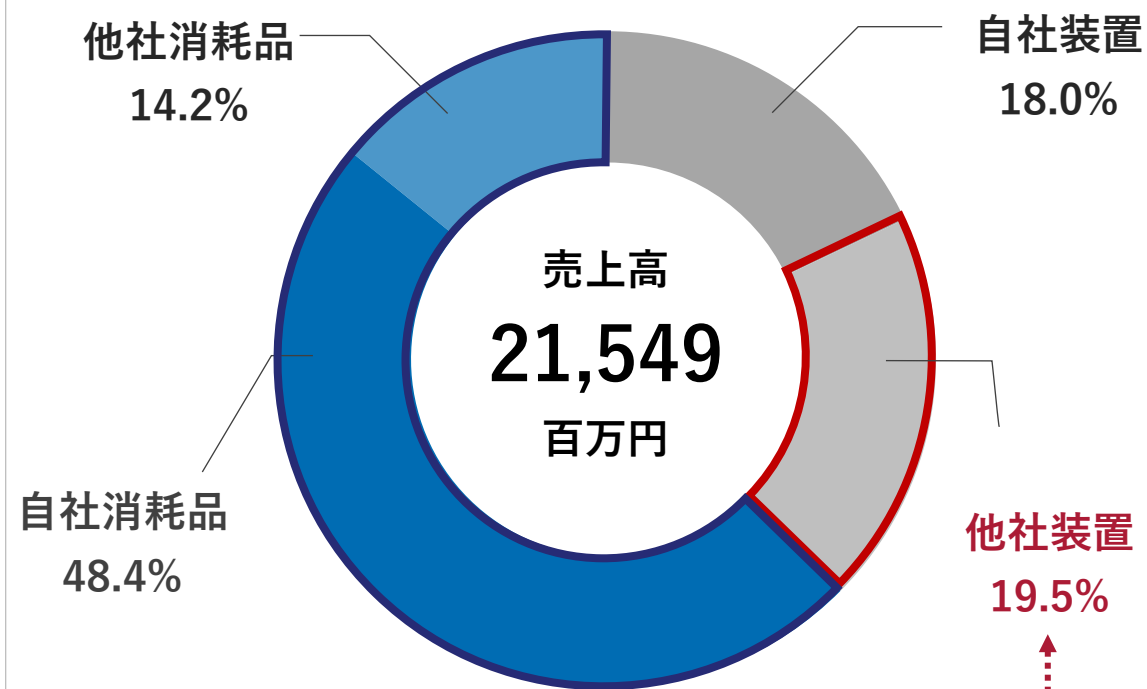


売上高ベースでは、消耗品を中心とする安定的な収益構造を維持しつつ、全ての製品カテゴリーで前期比較にて増収。2026年3月期はPFAS分析の需要の高まりに伴うトータルソリューションの提案により、他社装置の販売が大幅に伸長

2025年3月期

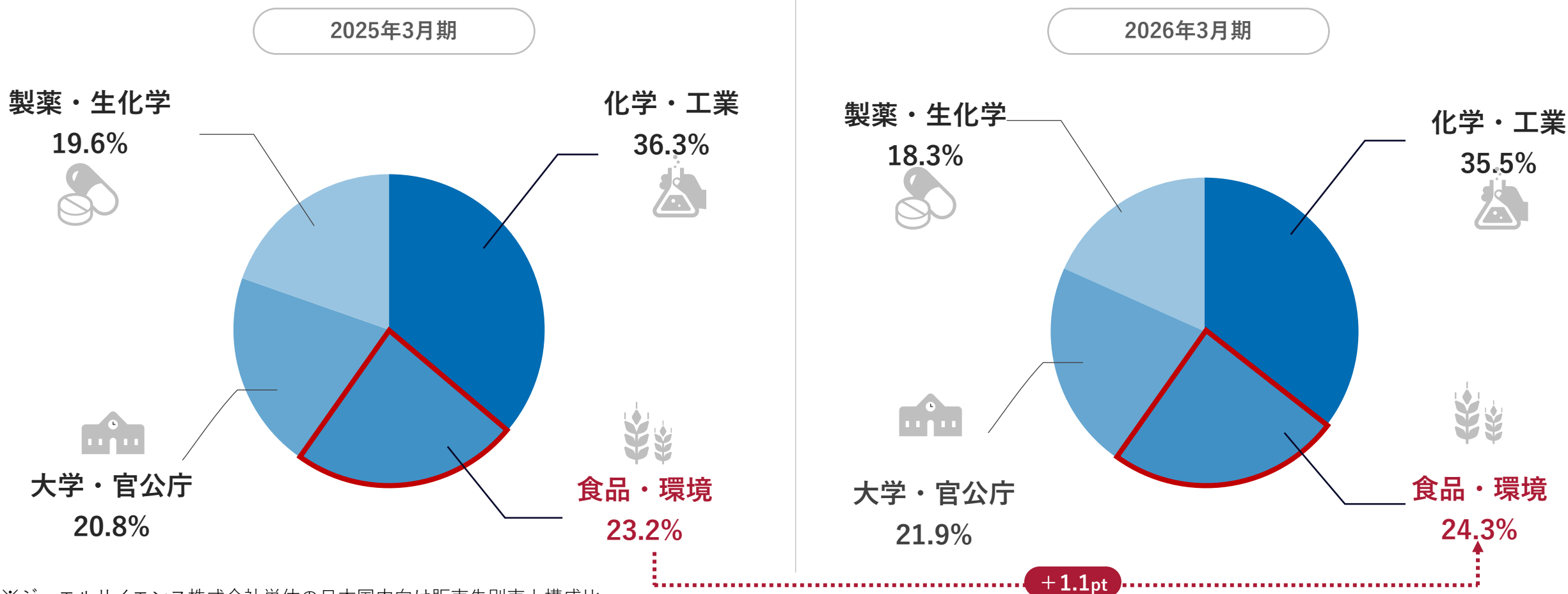


2026年3月期



+ 2.2pt

PFAS分析の需要増を背景に、質量分析計や固相抽出装置の販売が好調に推移し、食品・環境の比率が増加。特定の市場に偏らない顧客基盤を構築しており、安定的な事業成長に貢献

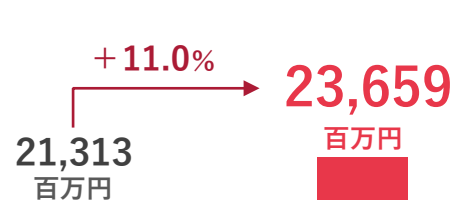


※ジーエルサイエンス株式会社単体の日本国内向け販売先別売上構成比

増収・増益

- 売上高は、期初における豊富な受注残高による工場の高稼働に加え、下半期における急激な受注環境の回復の影響により、前期比11.0%の増収
- 営業利益は、増収効果により前期比12.5%の増益。4Qは高収益案件の構成比上昇により営業利益が改善、収益性を維持

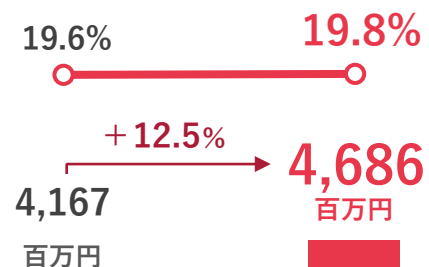
売上高



2025年3月期

2026年3月期

営業利益 (率)



2025年3月期

2026年3月期

要因・その他

<直近の市場動向>

- パソコンやスマートフォン、自動車向けの需要は依然として低迷しているものの、**AI向けデータセンターや生成AI関連製品の需要の拡大**を背景に、業界全体が活況に。
- 一方、メモリー製品を中心に需給が逼迫し始めており、引き続き注視が必要。

<今後の需要拡大に向けた対応>

- 新規需要の掘り起こし**や、**高付加価値製品**の開発と拡販によるマーケットの拡大
- 国内外での**増産体制**構築のための準備

売上高の前期比11.0%増に加え、下半期における急激な受注環境の回復の影響が工場の高稼働率に寄与し、営業利益は前期比12.5%の大幅な増益

| | 2025年3月期 | | 2026年3月期 | | 前期比 | |
|---------|----------|--------|----------|--------|---------|---------|
| | 実績 | 売上比率※1 | 実績 | 売上比率※1 | 増減率 | 増減額 |
| 単位：百万円 | | | | | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部売上高※2 | 21,313 | - | 23,659 | - | + 11.0% | + 2,346 |
| 内部売上高※3 | 26 | - | 2 | - | ▲90.8% | ▲24 |
| 計 | 21,340 | - | 23,662 | - | + 10.9% | +2,322 |
| 売上原価 | 14,851 | 69.6% | 16,596 | 70.1% | + 11.8% | + 1,745 |
| 売上総利益 | 6,488 | 30.4% | 7,065 | 29.9% | + 8.9% | + 576 |
| 販管費 | 2,321 | 10.9% | 2,378 | 10.1% | + 2.5% | + 57 |
| 営業利益 | 4,167 | 19.6% | 4,686 | 19.8% | + 12.5% | + 519 |

※1 合計の売上高に対する比率

※2 外部顧客への売上高

※3 セグメント間の内部取引高又は振替高

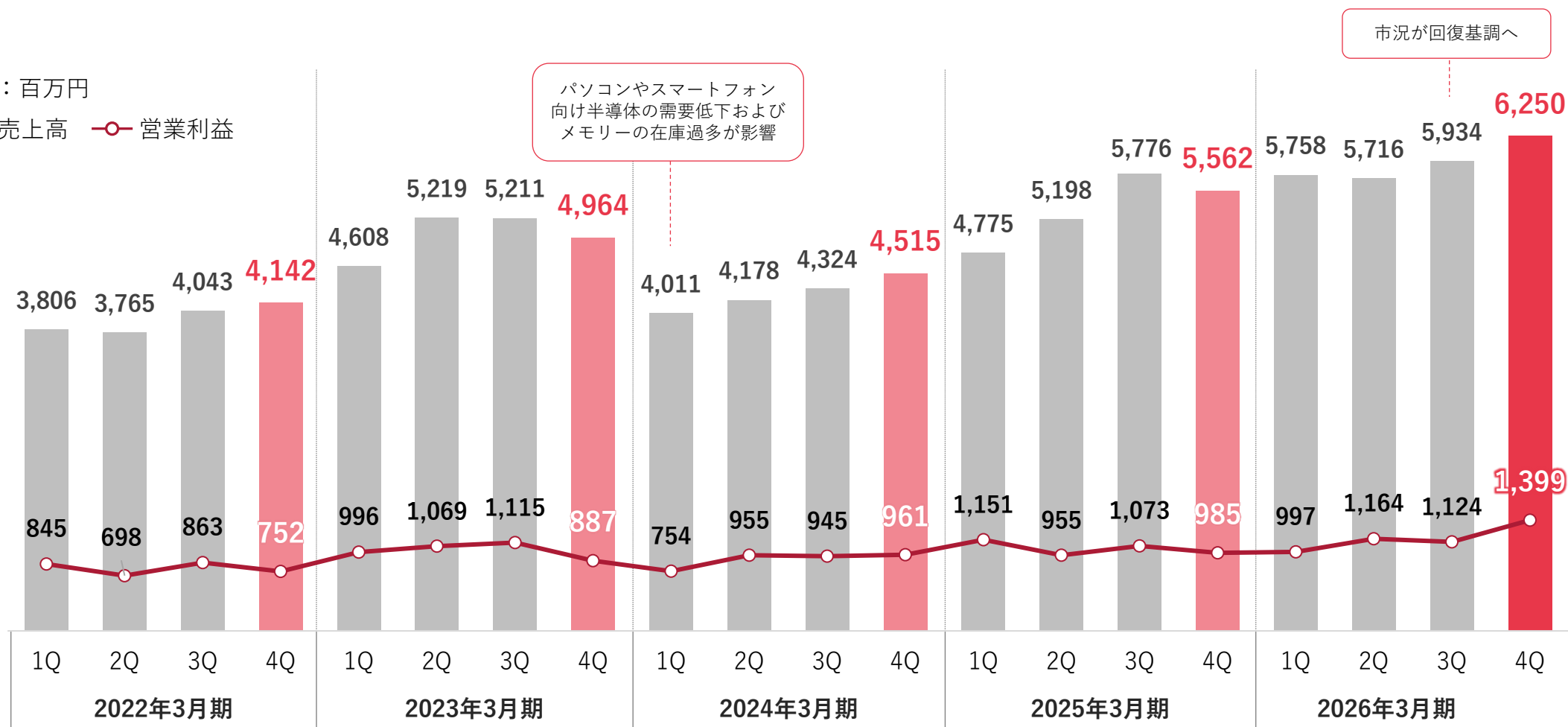
当事業においては、海外需要の拡大が全体成長を牽引、売上構成比は海外が64.6%に拡大

| 単位：百万円 | 2025年3月期 | 2026年3月期 | 前期比 | | 2026年3月期 構成比 |
|-----------|----------|----------|---------|--------|-----------------|
| | | | 増減率 | 増減額 | |
| 国内 | 8,350 | 8,371 | +0.2% | +20 | 35.4% |
| 海外 | 12,962 | 15,288 | +17.9% | +2,326 | 64.6% |
| 北米 | 959 | 1,100 | +14.7% | +141 | 4.7% |
| アジア | 11,978 | 14,129 | +18.0% | +2,151 | 59.7% |
| その他 | 24 | 58 | +134.0% | +33 | 0.2% |
| 合計（国内+海外） | 21,313 | 23,659 | +11.0% | +2,346 | 100.0% |

回復基調の事業環境を背景に、売上高・営業利益ともに好調に推移。4Qにおいては、収益性の高い案件の売上構成比が高まった事で営業利益率が改善、半導体事業として過去最高益を記録

単位：百万円

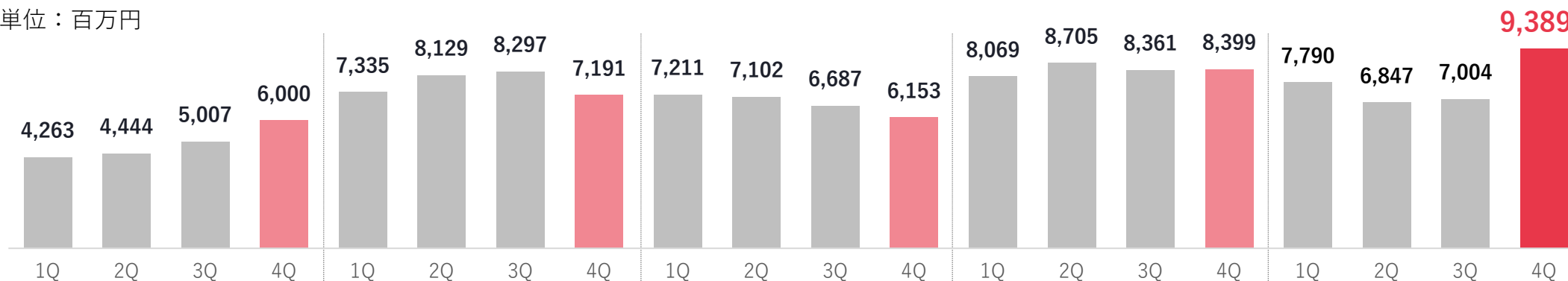
■ 売上高 ● 営業利益



市況回復を見据えた各メーカーによる先行的な設備投資の進展を背景に、受注残高及び受注高は過去最高レベルの水準に増加

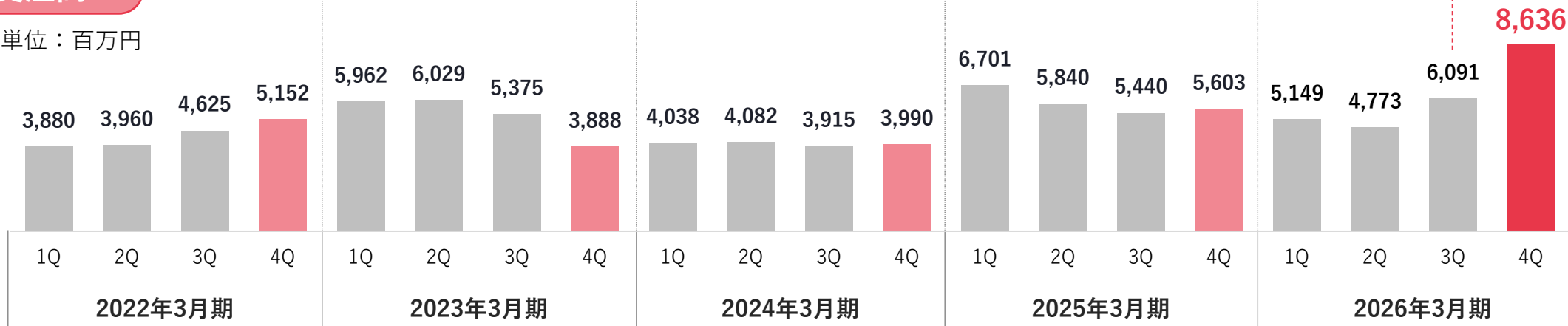
受注残

単位：百万円



受注高

単位：百万円



減収・減益

- 売上高は、住居関連施設やビル施設向け、警備・セキュリティ用途における需要減少等の影響により、前期比0.1%の減収
- 営業利益は、売上構成比における低利益率案件の比率が高い状況が続いている関係で、前期比56.1%の減益

売上高

1,982
百万円

▲0.1%

1,980
百万円

2025年3月期

2026年3月期

営業利益（率）

5.8%

2.6%

115
百万円

▲56.1%

50
百万円

2025年3月期

2026年3月期

要因・その他

<製品分類別状況>

- ・ **機器組込製品/完成系製品**
医療業界向け専用装置への組込製品が堅調に推移住居関連施設・ビル施設向け、警備・セキュリティ用途の需要減少が続き、伸び悩み。
- ・ **自動認識用その他**
駐車場向けゲートシステムの導入や立体駐車場向け傾きセンサの量産前テストが着実に進行。

<利益面について>

- ・ 収益性の高い製品群が低調な状況が続いている影響により、通期実績としても前期比減益。
- ・ 今後の回復・拡大に向け、複数の機器組込製品の開発案件を推進。

医療業界向け専用装置への組込みモジュールなどが堅調を維持、分析機器事業との協働による販売も拡大したものの、外部顧客への売上高は前期比微減

| | 2025年3月期 | | 2026年3月期 | | 前期比 | |
|--------------|----------|--------|----------|--------|--------|-----|
| | 実績 | 売上比率※1 | 実績 | 売上比率※1 | 増減率 | 増減額 |
| 単位：百万円 | | | | | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部売上高※2 | 1,982 | - | 1,980 | - | ▲0.1% | ▲2 |
| 内部売上高※3 | 43 | - | 76 | - | +76.8% | +33 |
| 計 | 2,025 | - | 2,056 | - | +1.5% | +31 |
| 売上原価 | 1,322 | 65.3% | 1,414 | 68.8% | +7.0% | +92 |
| 売上総利益 | 703 | 34.7% | 641 | 31.1% | ▲8.8% | ▲61 |
| 販管費 | 588 | 29.0% | 591 | 28.7% | +0.5% | +3 |
| 営業利益 | 115 | 5.7% | 50 | 2.4% | ▲56.1% | ▲64 |

※1 合計の売上高に対する比率

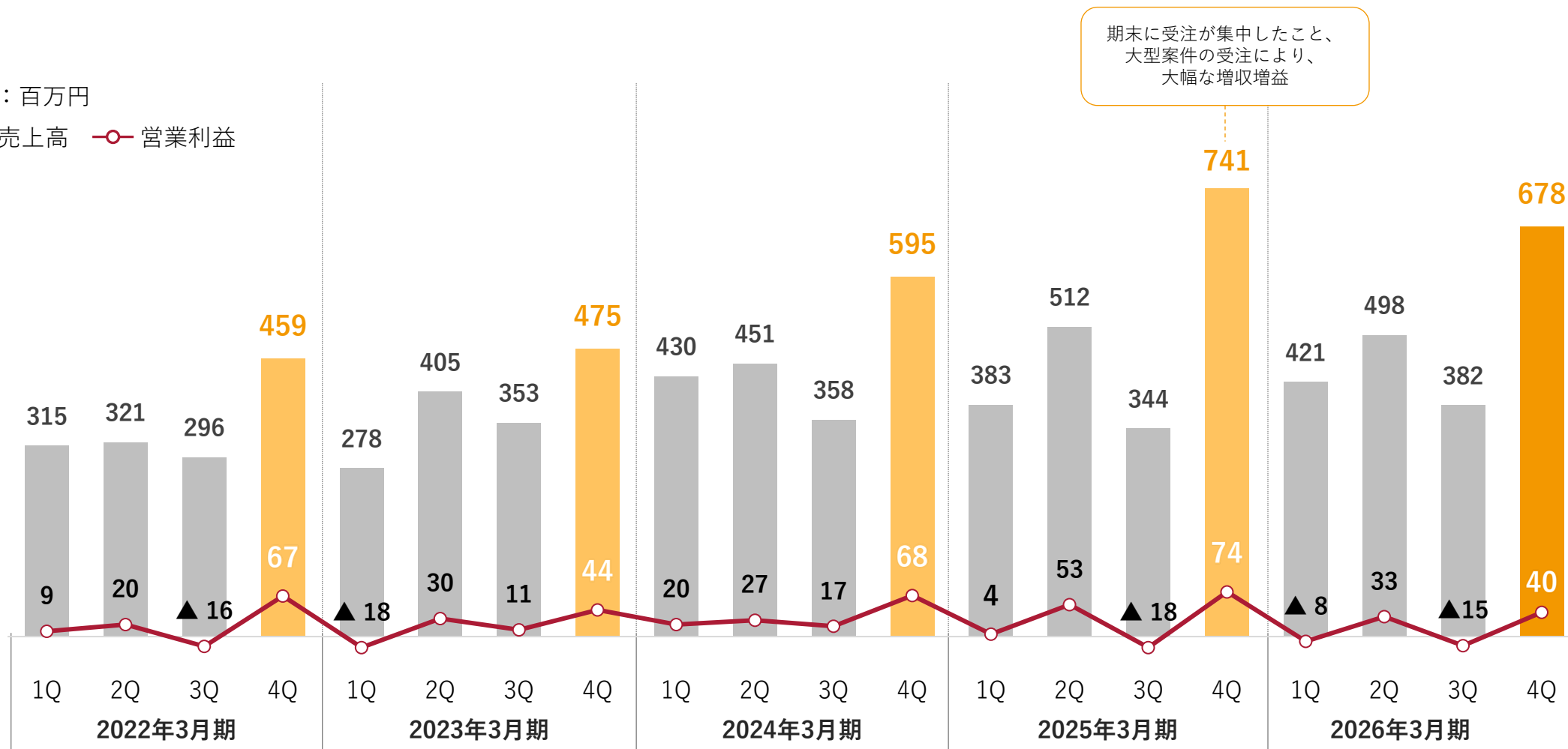
※2 外部顧客への売上高

※3 セグメント間の内部取引高又は振替高

受注時期の季節性により、売上は4Qに集中。一方、低利益率案件の構成比が高い状況が続いたことから、営業利益率は低調に推移

単位：百万円

■ 売上高 ○ 営業利益



連結および主力2事業にて、売上高・営業利益ともに計画を上回る着地

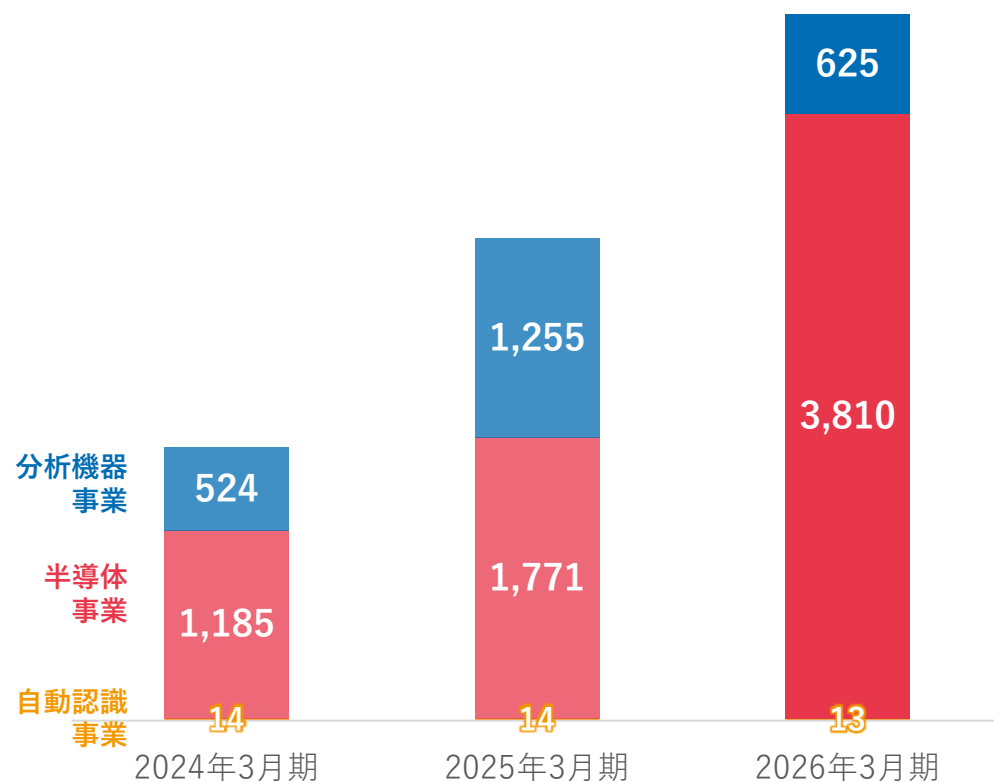
| 単位：百万円 | | 2026年3月期 通期実績 | 2026年3月期 計画値※ | 達成率 |
|--------|------|------------------|------------------|--------|
| 連結 | 売上高 | 47,189 | 44,700 | 105.6% |
| | 営業利益 | 7,111 | 6,680 | 106.5% |
| 分析機器事業 | 売上高 | 21,549 | 20,500 | 105.1% |
| | 営業利益 | 2,345 | 2,050 | 114.4% |
| 半導体事業 | 売上高 | 23,659 | 22,000 | 107.5% |
| | 営業利益 | 4,686 | 4,470 | 104.8% |
| 自動認識事業 | 売上高 | 1,980 | 2,200 | 90.0% |
| | 営業利益 | 50 | 140 | 36.1% |

※当計画値は2025年5月に開示した業績予想の数値

2026年3月期の設備投資は、半導体事業の生産キャパシティ拡大を目的としたものが中心
その稼働開始時期は2026年5月以降であり、2026年3月期の減価償却費は前期と同程度

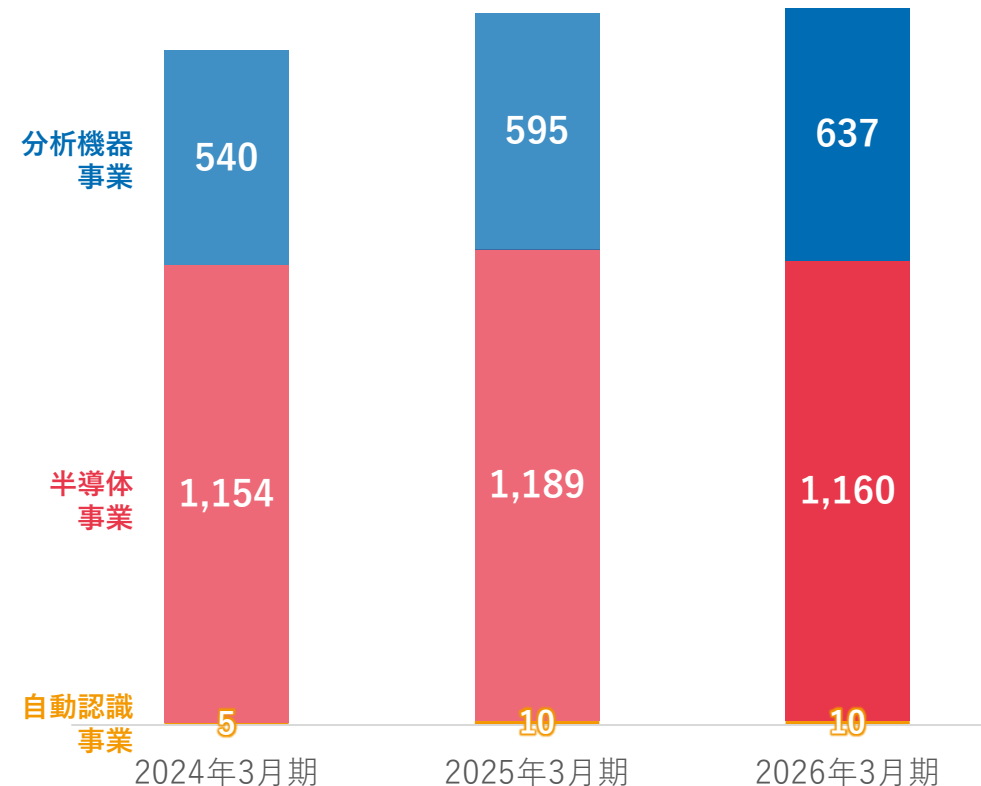
設備投資額

単位：百万円



減価償却費

単位：百万円



04. 中期経営計画の進捗状況

(2025年3月期－2027年3月期)

半導体事業を中心に生産能力の増強を着実に進め、最終年度に向けた成長基盤を構築

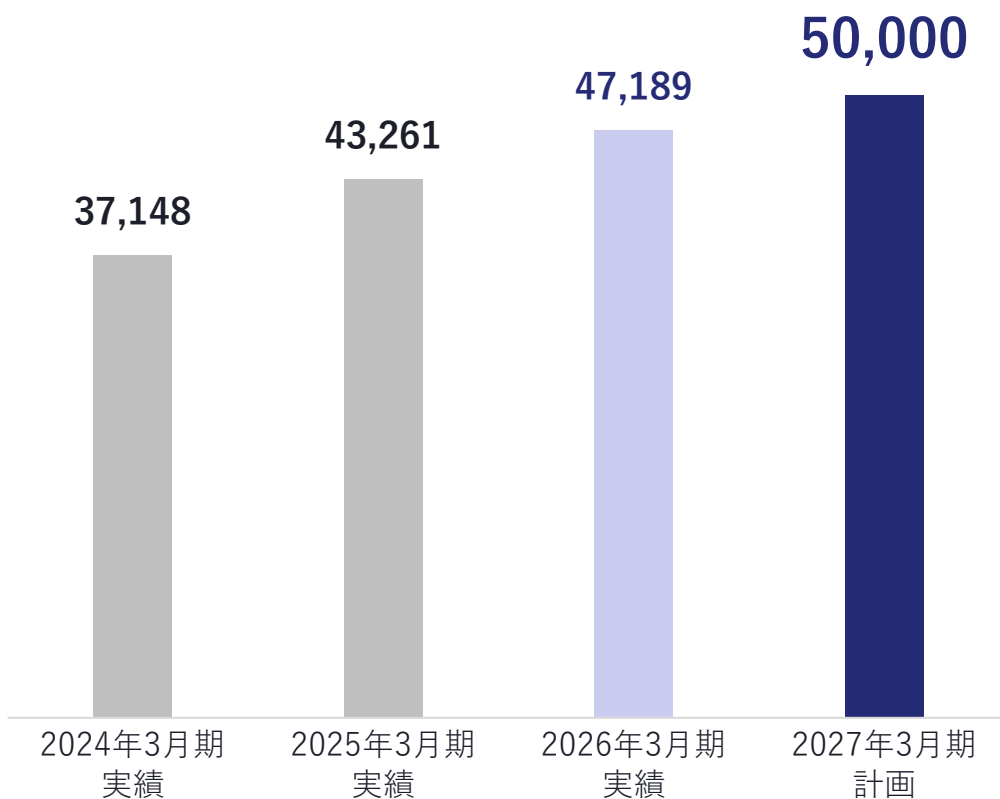
| | 施策 | 具体的取り組み・成果 |
|--------|---|---|
| 分析機器事業 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製品力の強化 ✓ 生産能力の増強 ✓ 競争力の強化 | <ul style="list-style-type: none"> • シェア拡大と収益基盤の強化を目的とした、新たなカラムを開発 • 市場機会を捉えた設備投資を行い、埼玉県入間市に生産棟を竣工 • 技術サービス強化による他社との差別化推進 |
| 半導体事業 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 生産能力の増強 ✓ 顧客との関係強化 ✓ 技術力の強化 | <ul style="list-style-type: none"> • 柔軟な生産拠点の検討により、海外においてはベトナム工場を新設、国内においても山形県と福島県に新たな生産棟を新設 • グローバルサプライチェーンにおける総合的な供給力・品質対応力の強化 • 研究開発活動により技術優位性を強化 |
| 自動認識事業 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 技術トレンド対応 ✓ グループシナジー | <ul style="list-style-type: none"> • パートナーシップ強化により新製品を開発 • グループ間商流の活用により、経営資源の最適化を推進 |

2027年3月期の目標に向けて売上高・営業利益ともに順調に推移

売上高

単位：百万円

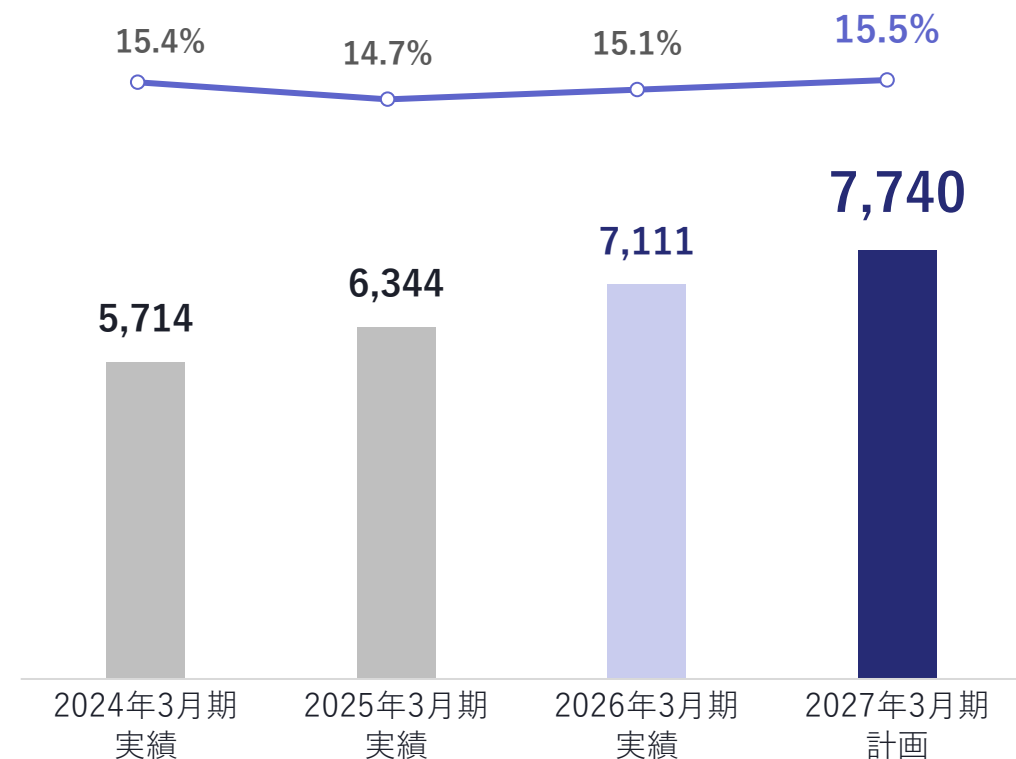
■ 売上高



営業利益

単位：百万円

■ 営業利益 ○ 営業利益率



自社消耗品の新製品として、HPLCカラム「Inertsil Hybrid-C18」をリリース
本製品の拡販により、当期において海外市場のシェア拡大と利益率改善に貢献

Inertsil Hybrid-C18



ターゲット
市場



製薬



化学工業

特長・強み

- ✓ 世界最高水準のHPLCカラム
- ✓ 自社で開発した全架橋型ハイブリッドシリカゲルを採用
- ✓ 過酷なpH条件や高温下でも安定した性能を発揮

当製品の販売状況

- ✓ 収益性の高い自社開発品の販売拡大を通じて、
売上高の増加に加え、営業利益の伸長に寄与
- ✓ 海外市場を中心とした新規顧客の獲得に貢献

埼玉県入間市における生産棟の竣工により、高付加価値・高単価のカスタムGCの生産能力を拡大

「成長を加速させるための戦略的な大型投資」の第一弾である、生産棟の竣工をいたしました。
カスタムGC（ガスクロマトグラフ）の生産能力の拡充、新製品の開発拠点として稼働することで、近年複雑化・高度化している顧客ニーズに柔軟に対応いたします。



完全稼働時に見込むことができる将来効果

- ✓ 生産能力は従来の武蔵工場比にて **約3倍**
- ✓ 受注の変動や納期短縮に **柔軟に対応可能に**
- ✓ 作業効率改善に伴う **利益率の向上**



概要

| | | | |
|-------|-----------------|-------|---------------------------------|
| 名 称 | クリエイティブバリューセンター | 面 積 | 敷地 8,366㎡ 延床 3,543㎡ |
| 所 在 地 | 埼玉県入間市 | 主な用途 | カスタムGC（ガスクロマトグラフ）の製造拠点拡充と新製品の開発 |
| 竣 工 日 | 2025年7月31日 | 投 資 額 | 約12億円 |

経営統合による迅速な意思決定により、ベトナム工場を早期に新設

半導体事業における成長戦略の方針である「持続可能な収益性の向上」「新規顧客と市場の開拓」に基づき、当社連結子会社であるテクノクォーツ株式会社が出資し、ベトナム・ニンビン省に TECHNO QUARTZ VIETNAM CO., LTD.（当社孫会社）を設立いたしました。



目的

半導体需要の拡大に伴う供給体制強化と生産ネットワーク再構築

投資総額 約50億円

操業開始予定時期 2027年初頭

工場新設により見込むことができる将来効果

✓ 生産能力の増強

完全稼働時における**石英製品**の生産能力は年間売上高ベースで**30億円**以上

✓ アクセス強化および柔軟かつ迅速な市場ニーズへの対応

- 米国の対中半導体規制をふまえ、供給網の多元化と貿易リスクへの体制強化
- 輸送コストの削減および環境負担の低減
- 豊富な労働力と人件費のコストメリット活用による価格競争力の強化

工場建設に向けた進捗状況

2025年12月、ベトナム・ニンビン省現地にて地鎮祭を催行
2026年1月より本格的な建設工事を開始

福島県喜多方における生産棟の竣工により、機械加工製品の生産能力増強

当社は、半導体事業における成長戦略「生産能力増強と効率最大化」に基づき、当社連結子会社であるテクノオーツ株式会社の子会社・アイシンテック株式会社において、喜多方第二工場を竣工いたしました。



写真奥：喜多方第二工場



概要

| | |
|-------|------------|
| 名 称 | 喜多方第二工場 |
| 所 在 地 | 福島県喜多方市 |
| 竣 工 日 | 2026年1月31日 |

| | |
|-------|-------------|
| 面 積 | 延床 2,511.2㎡ |
| 主な用途 | 機械加工による量産対応 |
| 投 資 額 | 約20億円 |

完全稼働時に見込むことができる将来効果

- ✓ 既存喜多方工場比で**生産能力約1.5倍**
- ✓ 自動化ライン増設による**生産量の最大化**
- ✓ 自動化による**製品品質の安定化**

「日本溶射学会2025年度論文賞」を受賞

技術優位性の強化を目的とした当社研究開発活動の成果として、耐食性の高い保護膜（セラミック溶射皮膜）で被覆された石英ガラス部材の再生工法を考案し、係る特許2件を取得しました。これらの技術開発成果を専門学会より評価いただき、論文賞を受賞いたしました。

今後も技術力の強化を進め、**顧客ニーズに応える高付加価値な製品・技術の創出**に取り組んでまいります。

概要

石英ガラス部材の設計・加工で培った知見を活かし
基材特性を踏まえた再生工法を開発



部材設計・加工・表面処理を組み合わせた
基材の高付加価値化への取り組みが外部評価に繋がる



写真左側：セラミック溶射皮膜で被覆された石英ガラス部材

関連情報：「日本溶射学会2025年度論文賞」を受賞しました

<https://www.techno-q.com/2025/07/01/20250701/>

技術トレンドに対応すべく、パートナーシップを強化し新製品を上市

RFIDシステムの
カスタム開発力

Advanced Card Systems Japan

接触・非接触を問わずカード
認証リーダーをラインアップ

モバイルウォレットや
高度な暗号化通信に対応した、
日本ではまだ実例の少ない
次世代のNFCリーダーを展開



Wallet Mate II (ウォレットメイト)

光学式文字認識(OCR)、RFID/NFC、QRコードスキャナ
一体型接触型スマートカードリーダー

パスポートリーダー AIR60U

05. 業績・配当予想

2027年3月期

業績への直接的な影響は軽微と認識、一方、不透明な市場環境に対しては引き続き要注視

主な影響・リスク

全社

- ・ 当社グループは、中東地域においては直接的な事業拠点や主要な仕入先・販売先を有していないことから、現時点では当社グループの業績に対する直接的な影響は軽微と認識
- ・ 物価高や為替の急変による景気減速、および顧客企業の業績悪化を通じた間接的な影響を及ぼす可能性あり

分析機器事業

- ・ 物流停滞や輸送費高騰を懸念した一部の販売店による先行発注が発生
- ・ ガスクロマトグラフにおける代表的なキャリアーガスとしてヘリウムを使用しているため、ヘリウムの価格が高騰した場合には関連する装置の稼働量が低下する可能性があるが、ガスクロマトグラフに関してはヘリウムの代わりに水素や窒素などを使用できる場合もあり、業績への影響は限定的と認識

半導体事業

- ・ 原油価格の高騰がエネルギーコスト上昇を招く可能性があり、特に電力の使用量の多い半導体事業において、コスト増の要因になり得る
- ・ ヘリウムは半導体の製造プロセスにおいても非常に重要な役割を担っており、ヘリウムの供給が不足した場合には、半導体事業の受注環境が変化する可能性あり

自動認識事業

- ・ 現状で考えられる影響、リスクは特になし

外部環境の不確実性が高い状況を踏まえつつも、収益拡大施策を着実に推進し、中期経営計画の最終年度に掲げている連結売上高および営業利益の数値目標は据え置き、達成を目指す

| 単位：百万円 | 2026年3月期 通期実績 | 2027年3月期 通期予想※ | 前期比 | |
|---------------------|------------------|-------------------|--------|---------|
| | | | 増減率 | 増減額 |
| 売上高 | 47,189 | 50,000 | + 6.0% | + 2,810 |
| 営業利益 | 7,111 | 7,740 | + 8.8% | + 628 |
| 営業利益率 | 15.1% | 15.5% | - | +0.4pt |
| 経常利益 | 7,721 | 7,800 | + 1.0% | + 78 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 5,358 | 5,460 | + 1.9% | + 101 |
| 年間配当（円） | 123 | 126 | + 2.4% | +3 |

市場環境の変動要素が多い昨今の状況を考慮し、セグメント別の計画値については、現時点では中期経営計画策定時の当初計画からの見直しは行わない方針に

| 単位：百万円 | | 2026年3月期 通期実績 | 2027年3月期 通期予想 | 前期比 | |
|--------|-------|------------------|------------------|---------|--------|
| | | | | 増減率 | 増減額 |
| 分析機器事業 | 売上高 | 21,549 | 22,500 | +4.4% | +950 |
| | 営業利益 | 2,345 | 2,110 | ▲10.0% | ▲235 |
| | 営業利益率 | 10.9% | 9.4% | - | ▲1.5pt |
| 半導体事業 | 売上高 | 23,659 | 25,000 | +5.7% | +1,340 |
| | 営業利益 | 4,686 | 5,430 | +15.9% | +743 |
| | 営業利益率 | 19.8% | 21.7% | - | +1.9pt |
| 自動認識事業 | 売上高 | 1,980 | 2,500 | +26.3% | +519 |
| | 営業利益 | 50 | 200 | +295.8% | +149 |
| | 営業利益率 | 2.6% | 8.0% | - | +5.4pt |

事業競争力を高めるべく、生産能力・営業力強化を推進

重点施策

分析機器事業

技術力・提案力を活かした収益基盤の強化

- PFAS需要への「トータルソリューション」提供、および国内外のトレンドに即した製品拡充・プロモーション強化
- 液体クロマトグラフィー用カラムの新製品開発、品質向上、製造コスト削減による収益拡大
- フィールドエンジニアの技術力を活かした他社装置販売拡大、ECサイトの積極的活用および特注装置の拡販

半導体事業

需要拡大に応える生産能力・営業力の強化

- 新拠点の稼働に加え、機械加工の自動化推進や火炎加工製品の増産体制構築
- 人員体制および生産部門の充実等による国内外の生産能力強化
- 各地域の営業力強化と新規需要の掘り起こし

自動認識事業

パートナーシップと先端技術による顧客基盤の拡大

- 共同開発案件を推進し、新市場への展開模索
- 新たな技術トレンドの追随
- 人材不足市場への提案機会増加、RFIDアプリケーションの拡大による新規顧客獲得

国内の水質基準に関する省令の一部改正及び水道法施行規則の一部改正等によるPFAS検査の義務化に伴い、「固相抽出カラム」をはじめとする消耗品のさらなる需要拡大を見込む。安定的な供給体制を整備し、需要拡大に対応



当社の実績と取り組み

- ✓ 2026年3月期の売上実績は、水質基準に準拠する固相抽出カートリッジの数量において、前期比 **約2倍**
- ✓ 定期検査の義務化による **継続的な需要を見込む**
- ✓ 需要増に対応する **安定的な供給能力を担保**



概要

水質基準改定によりPFASの定期検査が義務化され、水質分析需要が拡大。前処理に用いる固相カラムの使用頻度増加が見込まれ、継続的な消耗品需要の拡大を通じて売上への寄与が期待される。

| | |
|------|-------------------------|
| 施行日 | 2026年4月1日施行 |
| ポイント | PFAS(有機フッ素化合物)が定期検査の義務化 |
| 対象 | 全国の水道事業者等 |

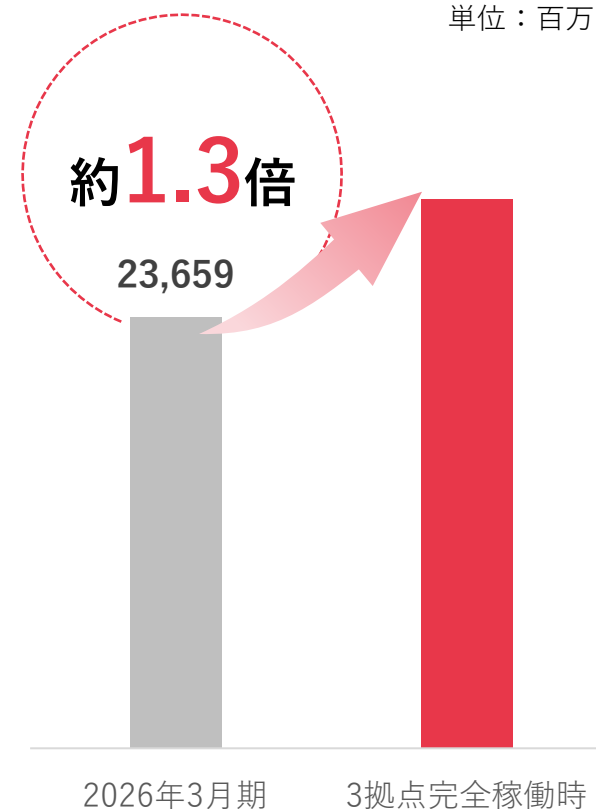
2027年3月期は半導体事業で総額約70億円※の設備投資を予定、3拠点の完全稼働時の年間売上高は約1.3倍に

半導体事業 年間売上高のイメージ

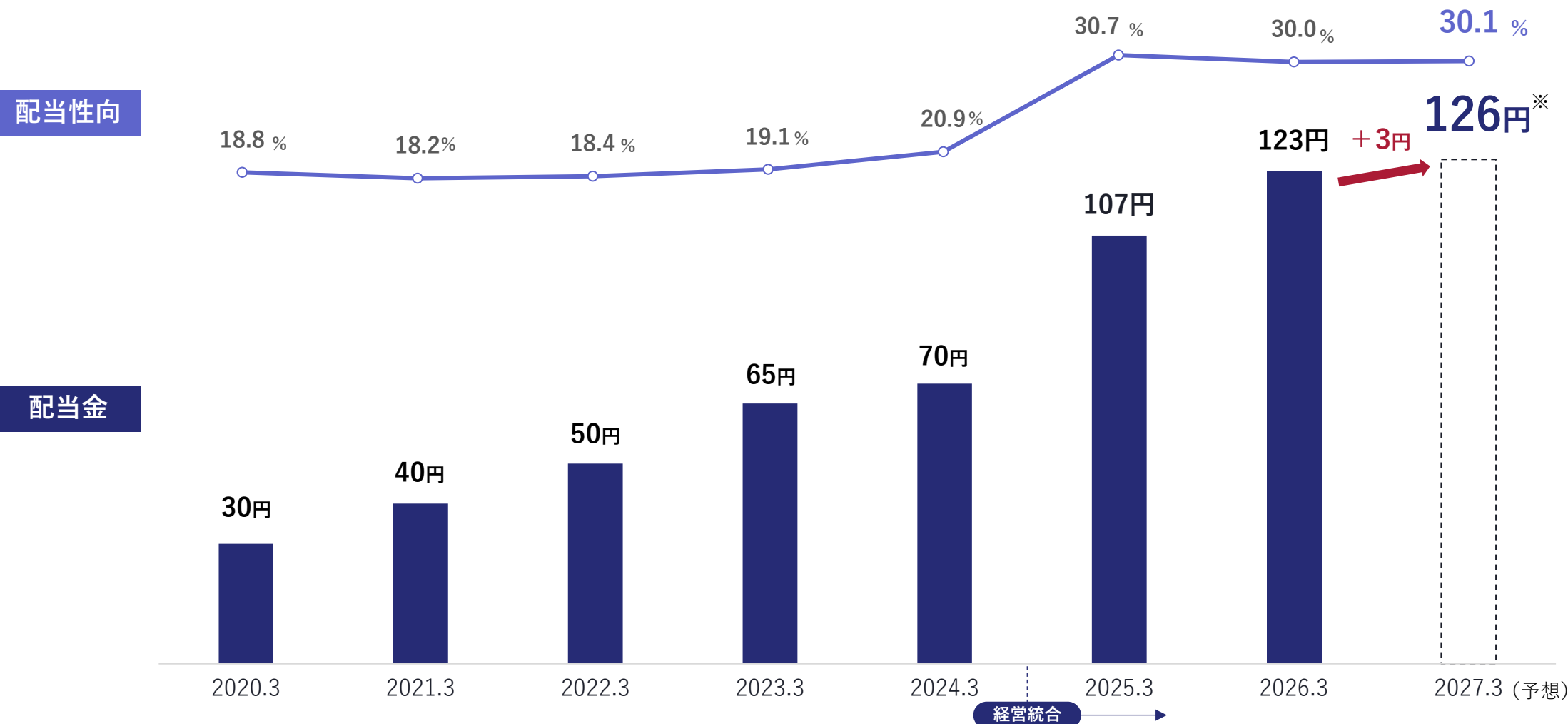
単位：百万円

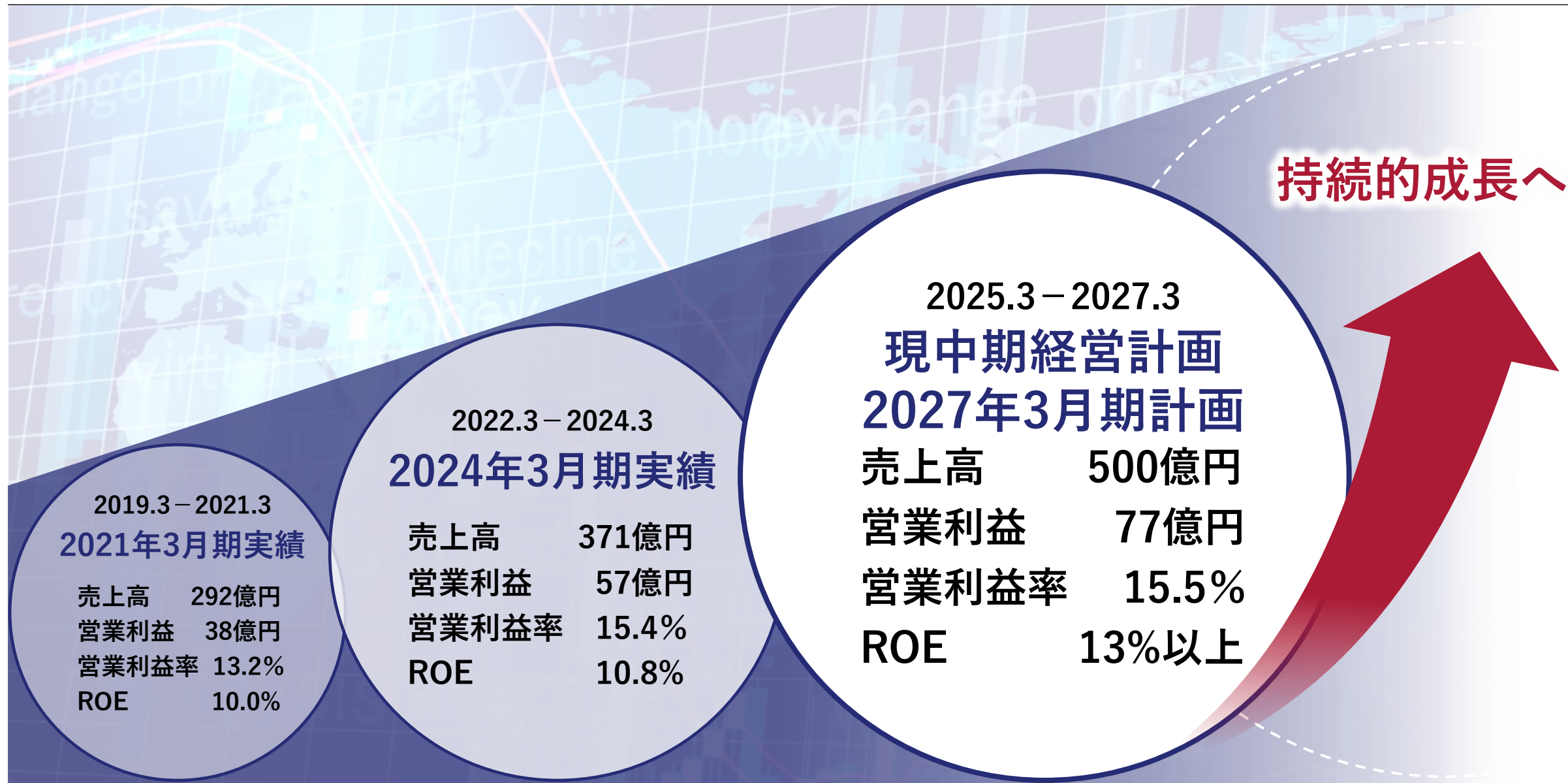
| 拠点 | | 特徴 | 稼働開始 時期 | 累計 投資総額 | 完全稼働時の インパクト |
|----|------------------|-------------------------|------------|------------|----------------------|
| 国内 | 福島県喜多方市 生産棟 | 機械加工により 量産に対応 | 2026年5月 | 20億円 | 当該拠点の生産能力 が約1.5倍へ |
| | 山形県山形市 生産棟 | 火炎加工により 複雑な加工に 対応 | 2027年1月 | 40億円 | 火炎加工の生産能力 が約2倍へ |
| 海外 | ベトナム・ ニンビン省工場 | 機械加工により 量産に対応 | 2027年1月 | 50億円 | 年間売上高ベースで 30億円以上 |

※3拠点にて累計投資総額は110億円を予定



生産能力増強のための設備投資とのバランスも考え、目標である配当性向30%を維持
 2027年3月期は3円増配の見込み





06. APPENDIX

会社名 ジーエルテクノホールディングス株式会社

設立 2024年10月1日

代表取締役社長 長見 善博

本社所在地 東京都新宿区西新宿六丁目22番1号

資本金 300,000千円

連結従業員数 1,245名（2026年3月31日現在、パートタイマーを除く）

連結売上高 47,189百万円（2026年3月期）



NETWORK 世界に広がるグループネットワーク

ジーエルテクノホールディングス株式会社

ジーエルサイエンス株式会社

東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
設立 1968年2月

株式会社フロム

株式会社グロース

技尔（上海）商贸有限公司

GL Sciences B.V.

GL Sciences, Inc.

テクノクォーツ株式会社

東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー12F
設立 1976年10月

アイシンテック株式会社

杭州泰谷諾石英有限公司

GL TECHNO America, Inc.

TECHNO QUARTZ VIETNAM CO., LTD.

ジーエルソリューションズ株式会社

東京都台東区松が谷1-3-5 上野イーストビルG1
設立 2013年4月



基本理念

ジーエルテクノホールディングスは、『真に社会性のある企業への成長』という「企業理念」のもと、社員が働くことへの幸せを感じる環境作り、持続的企業発展のための創造や挑戦、製造改善や新技術による環境問題への取組を通じた社会貢献を行っています。また、得られた利益は「会社・株主・社員・社会」に公正に分配し、技術や利益をもって「地球と社会の持続可能な発展」へと貢献します。『道は一つ、共に進もう』を永久スローガンとし、ステークホルダーと共に社会課題解決に取り組んでいきます。

基本方針

①持続的な企業価値の向上

変わり続ける事業環境の中で、レジリエンスを高め柔軟に対応することで、競争力および生産性の向上を実現します。

②環境保全への貢献

気候変動への対応、循環型社会への取組など、ステークホルダーとの協働・共創を推進し、より良い未来の実現を目指します。

③事業を通じた社会課題の解決

本業の活動を通じて、社会貢献を持続的に推進します。

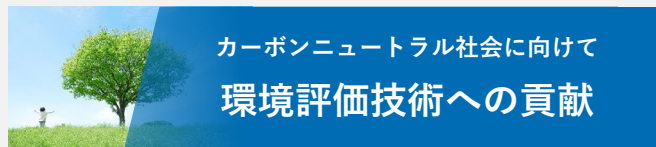
④企業活動を支える人材の育成と活躍の推進

お客様の課題解決のために挑戦を続け、社会に貢献できる人材を育成しやりがいと誇りをもって安全・健康に働くことができる環境を提供します。

⑤ガバナンス体制の強化

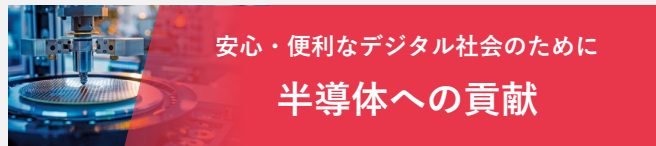
法令をはじめとした社会のルールを遵守するだけでなく、すべてのステークホルダーからの期待に応えるよう努めます。

製品・サービスの提供を通して、 健康で安全・安心な暮らしを支えます。



カーボンニュートラル社会に向けて 環境評価技術への貢献

次世代エネルギーやカーボンニュートラルの分野では、研究の成果を評価したり、エネルギー効率を判定するために、水素やアンモニアなどの分析が必要となります。ジーエルサイエンス株式会社は、お客様のニーズに応じたオーダーメイドの特注装置を開発・製造・販売することで、カーボンニュートラルな社会の実現に貢献しています。



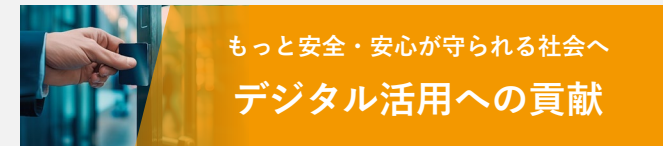
安心・便利なデジタル社会のために 半導体への貢献

半導体はインフラ整備や安全保障にも大きく貢献しており、私たちの生活に欠かせない存在です。その半導体製造装置の部材には、熱に強く薬品に侵されにくい素材が使われています。テクノクォーツ株式会社は、加工が難しい素材を、高い精度で加工した部材を提供することで、安心・便利な社会の実現に貢献しています。



より健康に生活できる社会に向けて PFAS分析への貢献

有機フッ素化合物(PFAS)は、フッ素系の撥水剤、防水剤、グリースなどに使われており、分解されにくく環境中に長く残ると言われている物質です。ジーエルサイエンス株式会社は、水道水、飲料水、排水、食品中のPFAS分析に関する製品・サービスを提供することで、健康で安心な社会に貢献しています。



もっと安全・安心が守られる社会へ デジタル活用への貢献

マイナンバーカードは、身分証明書として使えるだけでなく、自治体サービスやe-Taxなどの電子申請にも利用できるカードです。ジーエルソリューションズ株式会社は、電子申請や健康保険証利用時にデータを読み込む機器を提供することで、安全で便利なデータ共有ができる社会の実現に貢献しています。

Search for a Way

次のイノベーションのそばに。



ジーエルテクノホールディングス株式会社
〒163-1130 東京都新宿区西新宿6-22-1
TEL : 03-4212-6677
URL : <https://www.gltechno.co.jp>

免責事項

本資料に記載されている資料には、将来に関する業績の見通しを含みますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々なリスクや不確定要素に左右されるため、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料の著作権は、ジーエルテクノホールディングス株式会社に帰属します。事前の承諾なしに著作物を使用することはできません。